

よみがえる中世の知恵と技

しせききっかわしじょうかんあと

史跡吉川氏城館跡

まん とく いん あと
万 徳 院 跡

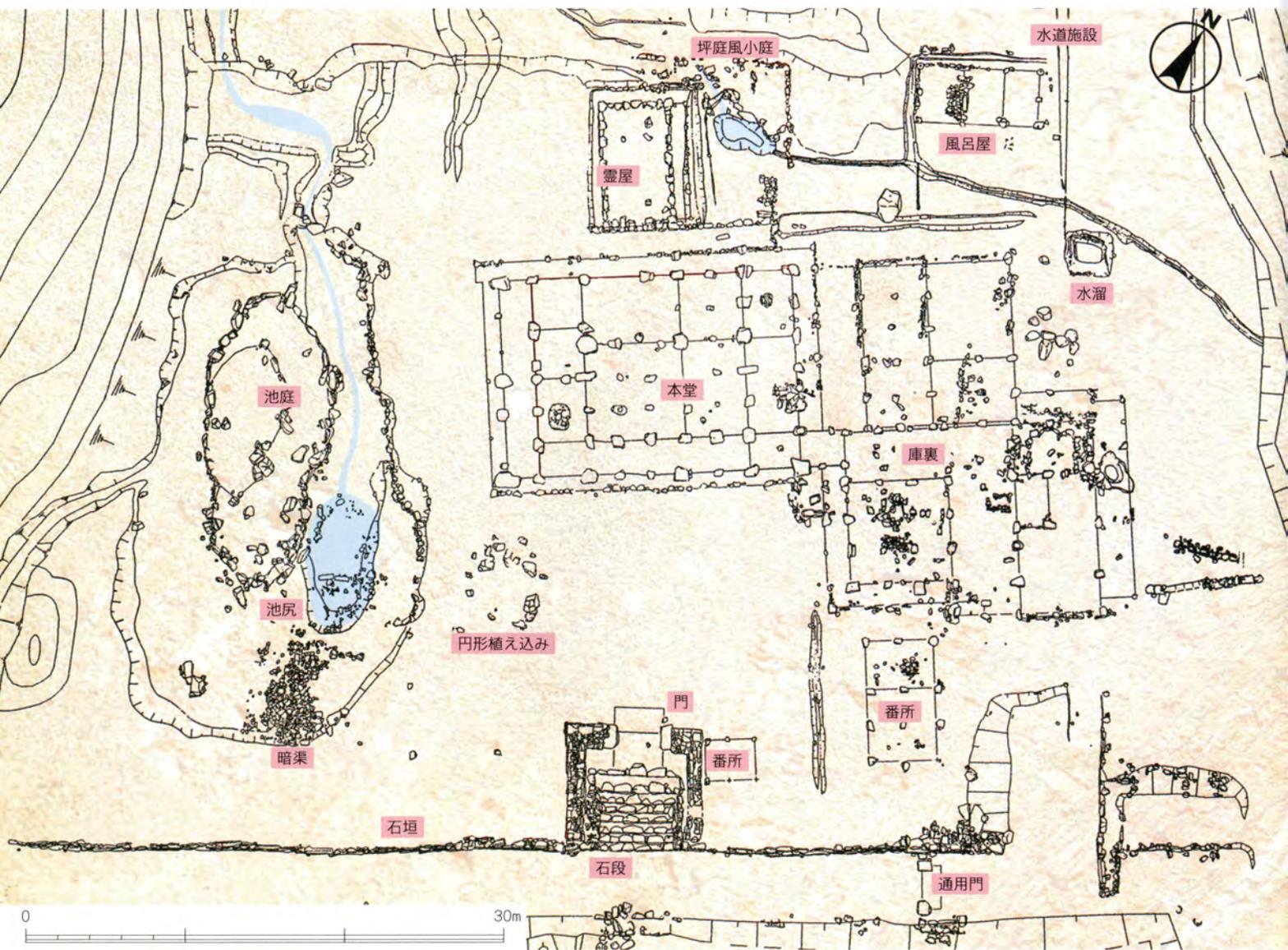


法華経版木



万徳院復元模型(1590年頃)

万徳院跡の境内地



万徳院跡は、1574(天正2)年頃に、この地域に勢力を広げていた吉川元長(毛利元就の孫)が建立した寺院の跡です。当初は山中の谷あいにはっそりと建つ、いわば別邸でしたが、元長の死後、弟の広家が吉川氏の菩提寺としてふさわしい寺院を求め、長い参道や石垣、庭園、建物の増築などの大改修を行いました。しかし、1600年に吉川氏が現在の山口県岩国市へ移されると、万徳院もこれに従い、建物ごと移転しました。

1991年度から始まった発掘調査によって本堂跡・庫裏跡・風呂屋跡・水道施設・庭園跡・炭窯跡・法華経版木・竹製裏目物差など、多くの遺構や遺物が見つかると同時に、寺院の建立で発揮された人々の様々な知恵や技術が明らかになりました。



■池庭跡

池の水は南端にしか溜まらず、谷川の景観を意図した庭園と考えられます。水は池尻から石垣の下までの栗石による暗渠を通し排出しています。また、大水の際の調整池の役割も果たしていました。



■本堂跡

間取りは京都の禅宗寺院にみられる方丈型本堂に類似しており、強い影響を受けていたことがわかります。柱や梁などの建築部材が出土しないことから、移転の際、建物は解体して持ち出されたようです。

再現 中世の蒸し風呂

東西三間、南北二間の風呂屋です。湯釜で発生させた蒸気を風呂屋形という小部屋に引き込み、蒸気浴する蒸し風呂形式のもので、この風呂屋は現存例（西本願寺飛雲閣と妙心寺）や、室町時代の絵巻物「慕婦絵詞」、江戸時代の大工技術書「愚子見記」、町域の社寺建築などを参考にして作られています。

この時期の風呂屋跡の出土例としては、福井県一乗谷朝倉館跡に次いで二例目ですが、実際に使用できる唯一のもので、

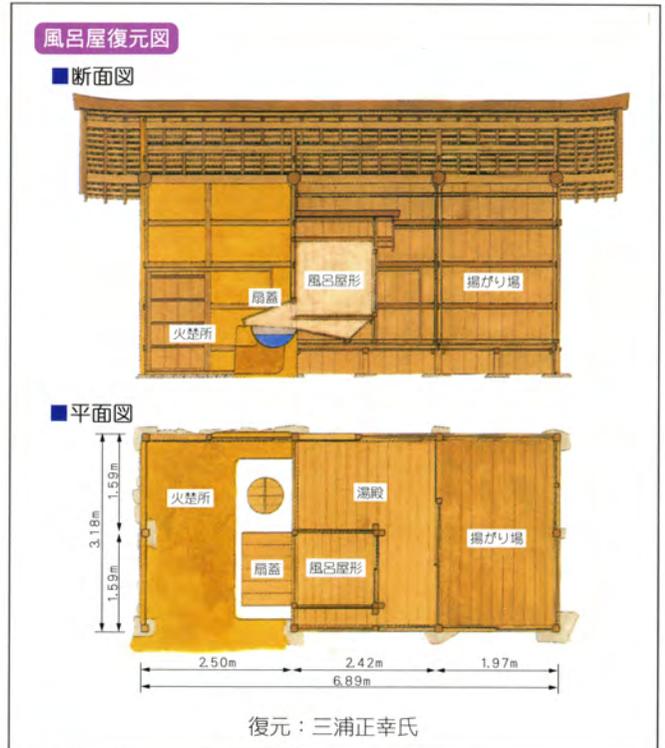


風呂屋跡

かまどの石組みが立体的に残っています。

風呂屋形

大人4人が座って入れるほどの大きさで、窓はありません。風呂屋形内は45度になり、マイルドな蒸気と杉や桧の香りが充満していて、気持ちよく汗を出すことができます。風呂には「ゆかたびら」という白装束を着て入ることが作法であり、現在の浴衣はそのなごりです。



木舞

風呂屋跡の北側でみつかった土壁の骨組みです。これを参考に風呂屋の土壁を復元しました。



風呂屋



焚き場

当時のかまどには煙突がついていなかったようです。かまどの上には鉄釜が据えてあり、扇蓋で囲って風呂屋形内に煙が入らないようにしてあります。手前のかまどでは上がり湯用の湯を沸かします。

4.3cm



ちけはいうらめちのさし

■竹製裏目物差(池庭池尻出土)

4.3cmの目盛りは、一寸=3.03cmの $\sqrt{2}$ (1.414)倍になっており、曲尺の裏側に刻まれることから「裏目」と言います。「裏目」は丸太から角材を取り出すなど色々な使い方があり、大工さんの必需品です。



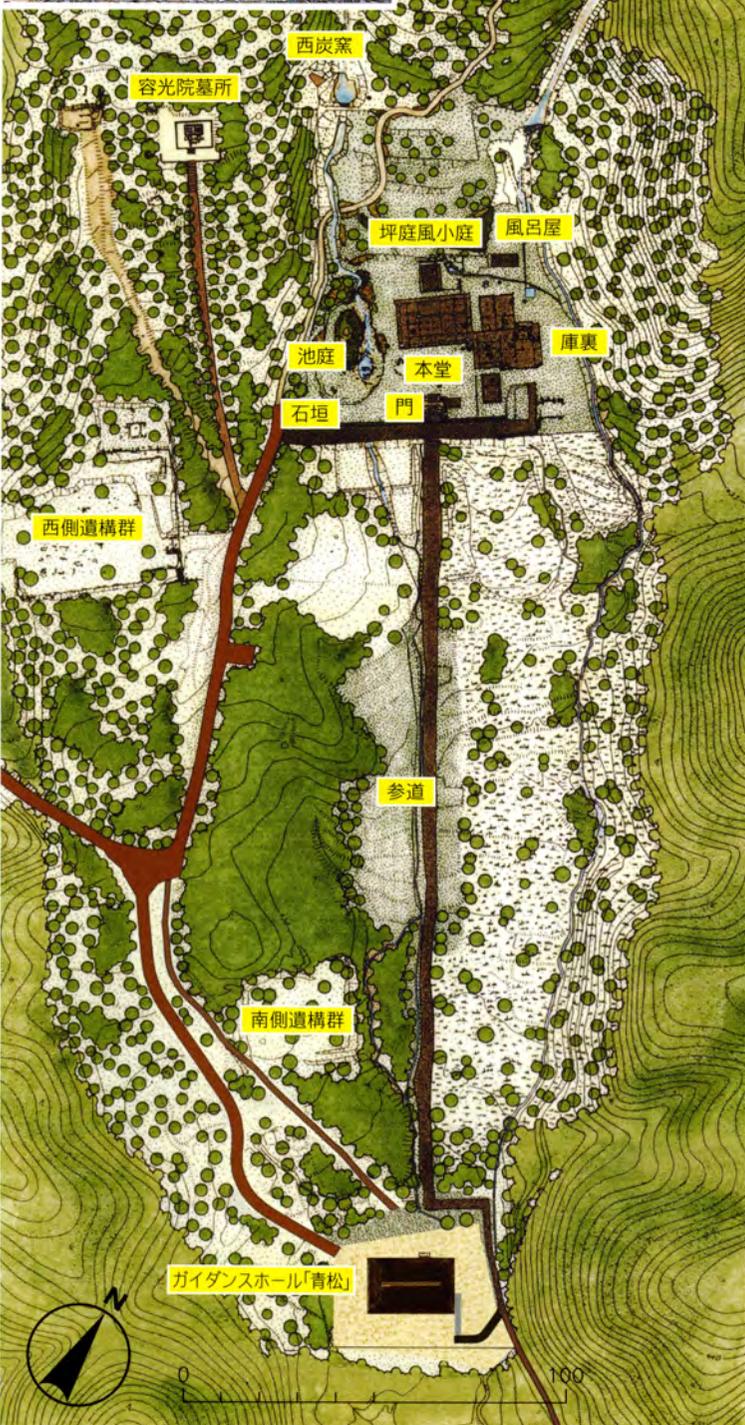
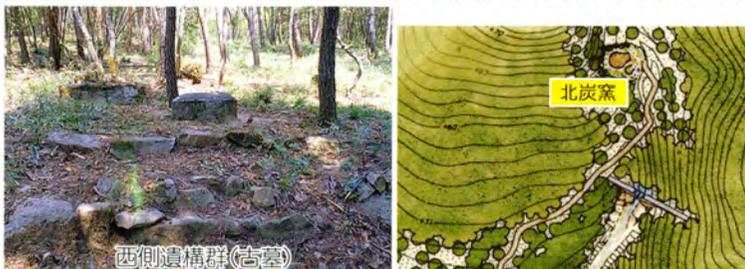
■陶磁器と土師質・瓦質土器



ほけきょうばんぎ

■法華経版木(池庭池尻出土)

版木とは、印刷するために文字を表裏逆に彫刻した木の板です。大きさは縦25cm・横85cm・厚さ2cm、ヤマザクラ材の両面彫りです。



■万徳院跡ガイダンスホール「青松」

当時の本堂の外観をモデルにし、規模はそのままに再現した建物です。(展示・休憩コーナー・トイレ)

中世遺跡保存整備事業

広島県教育委員会と地元教育委員会が共同で実施。中世社会を生きた一人ひとりにスポットライトを当て、地域史を読み解き、今後の社会の発展に資するものです。



史跡吉川氏城館跡(万徳院跡)

指定年月日 昭和61年8月28日(平成9年9月2日追加指定)

指定面積 110,207㎡

所在地 広島県山県郡北広島町大字舞綱字万徳

北広島町教育委員会生涯学習課

広島県山県郡北広島町有田1234番地 TEL0826-72-0864